

読売日本交響楽団 月刊オーケストラ 2020年3月号

読 響
Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra
<https://yomikyo.or.jp/>

M
O
N
T
H
L
Y
O
R
C
H
E
S
T
R
A

3
.
2
0
2
0

Y
O
M
I
K
Y
O

M O N T H L Y O R C H E S T R A 3

読 響
Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

なにができるんだろう？

夢と希望にあふれた
社会づくりを実現させるために、
わたしたち大成建設は
これから人がいきいきとする環境を創造します。

地図に残る仕事。®

 **大成建設**
TAISEI

For a Lively World



いつでも、
待っている。
ほっとする
仲間がいる。



アフラック ペアレンツハウスは、小児がんなど難病の子どもと、
そのご家族をサポートする、ふれあいの家です。

日本で初めてがん保険をつくった保険会社として、
がんと向き合う親子のもうひとつの我が家をつくりたい。
そんな想いから東京と大阪に3か所、ペアレンツハウスが誕生しました。



1泊1,000円で宿泊できます。
(患児は無料)



何でも相談できる
ソーシャルワーカーがいます。



お互いのことを話せる
仲間がいます。



無料の講演やイベントを
開催しています。

アフラックの保険に未加入でもご利用いただけます。

私たちにできる応援を。

アフラックペアレンツハウスは、アフラック、アソシエイツ®、その他多くの方々からの寄付により、
公益財団法人 がんの子どもを守る会が運営しています。*販売代理店

「生きる」を創る。

Aflac

3月の演奏会 2

3/5 名曲シリーズ

3/7 みなとみらいホリデー名曲シリーズ

3/12 定期演奏会

3/14 土曜マチネシリーズ

3/15 日曜マチネシリーズ

3月のマエストロ&アーティスト 5

3月の楽曲紹介 7

MONTHLY ORCHESTRA 3

読売日本交響楽団 月刊オーケストラ 2020年3月号 目次

特集

ヴァイグレの〈トリスタンとイゾルデ〉と ヒンデミットの館 16

池田卓夫

演奏をお楽しみいただくために



写真撮影・録画・録音はお断りいたします。



携帯電話の電源、時計のアラームはお切りください。補聴器はしっかり装着してください。キーホルダーの鈴やアメの包み紙の音などにもご注意ください。



演奏中にプログラムをご覧になる際は、ページをめくる音にご配慮ください。チラシなどは膝上ではなく、足元に置いておくことをお勧めします。



咳やくしゃみはハンカチでお口元を押さえてくださるようお願いいたします。また、体を大きく動かすと他のお客様のご迷惑、鑑賞の妨げになりますのでご注意ください。



「ブラボー」や拍手はタクトが降ろされてから。消えゆく余韻は生演奏の醍醐味です。その貴重な時間を、ぜひご堪能ください。

4月の公演 22

4月公演の聴きどころ 23

5月・6月の公演 24

読響ニュース 26

日テレコーナー 30

読響シンフォニックライブ放送予定

プロデューサー日記

読響賛助会員 32

読響メンバー 36

読響プロフィール 40

3/5 Thu.

第630回 名曲シリーズ
サントリーホール 19時開演
POPULAR SERIES No.630 / Suntory Hall 19:00

3/7 Sat.

第118回 みなとみらいホリデー名曲シリーズ
横浜みなとみらいホール 14時開演
YOKOHAMA MINATO MIRAI HOLIDAY POPULAR SERIES No.118 / Yokohama Minato Mirai Hall 14:00

指揮
Principal Conductor
ヴァイオリン
Violin
コンサートマスター
Concertmaster

ヴェルディ
VERDI

シューマン
SCHUMANN

[休憩]
[Intermission]

ブラームス
BRAHMS

セバスティアン・ヴァイグレ (常任指揮者) -p.5

SEBASTIAN WEIGLE

カロリン・ヴィトマン -p.6

CAROLIN WIDMANN

長原幸太

KOTA NAGAHARA

※当初の発表から出演者が一部変更されました。

歌劇《運命の力》序曲 [約8分] -p.7

“La forza del destino” Overture

ヴァイオリン協奏曲 二短調 [約33分] -p.8

Violin Concerto in D minor

I. In Kräftigem, nicht zu schnellem Tempo

II. Langsam – III. Lebhaft, doch nicht schnell

交響曲 第1番 ハ短調 作品68 [約45分] -p.9

Symphony No. 1 in C minor, op. 68

I. Un poco sostenuto – Allegro

II. Andante sostenuto

III. Un poco allegretto e grazioso

IV. Adagio – Più andante – Allegro non troppo ma con brio

3/12 Thu.

第596回 定期演奏会
サントリーホール 19時開演
SUBSCRIPTION CONCERT No.596 / Suntory Hall 19:00

指揮
Principal Conductor

ピアノ
Piano

特別客演コンサートマスター
Special Guest Concertmaster

ヒンデミット
HINDEMITH

[休憩]
[Intermission]

R. シュトラウス
R. STRAUSS

セバスティアン・ヴァイグレ (常任指揮者) -p.5

SEBASTIAN WEIGLE

ルーカス・ゲニューシャス -p.6

LUKAS GENIUŠAS

日下紗矢子

SAYAKO KUSAKA

主題と変奏《4つの気質》 [約29分] -p.10

Theme and Variations “The Four Temperaments”

I. 主題

II. 第1変奏: 憂鬱質

III. 第2変奏: 多血質

IV. 第3変奏: 粘液質

V. 第4変奏: 胆汁質

交響詩《英雄の生涯》 作品40 [約45分] -p.13

Ein Heldenleben, op. 40

I. 英雄 – II. 英雄の敵 – III. 英雄の伴侶 – IV. 英雄の戦い

– V. 英雄の業績 – VI. 英雄の引退と完成

主催: 読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金 (舞台芸術創造活動活性化事業)



独立行政法人日本芸術文化振興会

協力: 横浜みなとみらいホール (3/7)

主催: 読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金 (舞台芸術創造活動活性化事業)



独立行政法人日本芸術文化振興会

協力: アフラック

3/14 Sat.

第225回 土曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール 14時開演
SATURDAY MATINÉE SERIES No.225 / Tokyo Metropolitan Theatre 14:00

3/15 Sun.

第225回 日曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール 14時開演
SUNDAY MATINÉE SERIES No.225 / Tokyo Metropolitan Theatre 14:00

指揮
Principal Conductor

ピアノ
Piano

特別客演コンサートマスター
Special Guest Concertmaster

ベートーヴェン
BEETHOVEN

[休憩]
[Intermission]

R. シュトラウス
R. STRAUSS

セバスティアン・ヴァイグレ (常任指揮者) -p.5
SEBASTIAN WEIGLE

ルーカス・ゲニューシャス -p.6
LUKAS GENIUŠAS

日下紗矢子
SAYAKO KUSAKA

ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73《皇帝》
[約38分] -p.12

Piano Concerto No. 5 in E flat major, op. 73 "Emperor"
I. Allegro
II. Adagio un poco mosso
III. Rondo : Allegro

交響詩《英雄の生涯》 作品40 [約45分] -p.13
Ein Heldenleben, op. 40

I. 英雄 - II. 英雄の敵 - III. 英雄の伴侶 - IV. 英雄の戦い
- V. 英雄の業績 - VI. 英雄の引退と完成

指揮

セバスティアン・ヴァイグレ
(常任指揮者)

SEBASTIAN WEIGLE, Principal Conductor

オペラ指揮者の本領発揮 1年目の総決算



©読響

昨年4月に常任指揮者に就任し、読響に本場ドイツの風を吹き込んでいるマエストロ。今回は、得意とするR.シュトラウス作品から《英雄の生涯》などを取り上げ、1年目のシーズンを締めくくる。

1961年ベルリン生まれ。82年からベルリン国立歌劇場管の首席ホルン奏者として活躍後、巨匠バレンボイムの勧めで指揮者に転向。2003年にフランクフルト歌劇場でR.シュトラウス《影のない女》を振り、雑誌『オーパンヴェルト』の「年間最優秀指揮者」に選ばれた。04年から09年までバルセロナのリセウ大劇場の音楽総監督を務め、ベルク《ヴォツェック》やワーグナー《タンホイザー》など数々の名演奏を繰り広げ、評判を呼んだ。07年にはワーグナー《ニュルンベルクのマイスタージンガー》でバイロイト音楽祭にデビュー。11年まで指揮し、世界的注目を浴びた。08年からフランクフルト歌劇場音楽総監督の任にある。11年に同歌劇場管が『オーパンヴェルト』誌の「年間最優秀オーケストラ」に選ばれ、15年と18年にも同歌劇場が「年間最優秀歌劇場」に輝くなど、その手腕は高く評価されている。

これまでに、メトロポリタン歌劇場、ベルリン国立歌劇場、ドレスデン国立歌劇場、バイエルン国立歌劇場などに客演を重ねるほか、ザルツブルク音楽祭、ベルリン放送響、ウィーン響、フランクフルト放送響などを指揮し、国際的に活躍している。

読響には16年8月に初登場。オペラでは17年7月の東京二期会のR.シュトラウス《ばらの騎士》、19年6月の同《サロメ》で共演し、いずれも好評を博した。

3/5

名曲

3/7

みなとみらい

3/12

定期

3/14

土曜マチネー

3/15

日曜マチネー

Maestro

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

共催：東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術創造活動活性化事業）



独立行政法人日本芸術文化振興会

3/5
名曲3/7
みなとみらい

Artist



©Lennard Ruehle

ヴァイオリン

カロリン・ヴィトマン

CAROLIN WIDMANN, Violin

艶やかな音色で魅了するドイツの実力派。ミュンヘン生まれ。これまでにラトル、シャイー、ノリントン、ヤノフスキ、カンブルラン、ガーディナー、ドホナーニらの指揮で、ベルリン・フィル、バイエルン放送響、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、フランクフルト放送響、ウィーン放送響、ロンドン響、チューリヒ・トーンハレ管などと共演している。ザルツブルク、ルツェルンをはじめとする音楽祭でも活躍。ベルリン・フィルハーモニー、ウィグモアホールなど欧州の著名コンサートホールでリサイタルを開催している。録音も数多く、ECMレーベルからリリースされたシューマンのヴァイオリン協奏曲のCDは、国際クラシック音楽賞（ICMA）の協奏曲部門を受賞するなど高く評価されている。今回が読響初登場。

3/12
定期3/14
土曜マチネー3/15
日曜マチネー

Artist

桁違いの才能を持ち、欧米で注目を浴びるピアノの大家。1990年モスクワ生まれ。モスクワ音楽院の教授であった祖母ゴルノスターエワから影響を受ける。バッカウアー国際コンクール優勝。2010年のショパン国際ピアノコンクールと15年のチャイコフスキー国際コンクールで第2位。ゲルギエフ、プレトニョフ、スラットキン、ソヒエフらの指揮で、サンクトペテルブルク・フィル、マリインスキー歌劇場管、フランス放送フィル、バーミンガム市響、モントリオール響などと共演。ラ・ロック・ダンテロン国際ピアノ音楽祭、ロッケンハウス音楽祭に出演。レパートリーはベートーヴェンからヒンデミット、ジョン・アダムズまで幅広い。メロディア・レーベルなどからCDをリリースしており、ディアパソン・ドール賞に輝いている。今回が読響初登場。



©Ira Polyarnaya

ピアノ

ルーカス・ゲニューシャス

LUKAS GENIUŠAS, Piano

ヴェルディ 歌劇《運命の力》序曲

オペラの序曲のなかには、序曲だけでも本編に劣らないほど大きなドラマを描く規格外の傑作がある。たとえばベートーヴェンなら序曲《レオノーレ》第3番であり、ロッシーニなら《ウィリアム・テル》序曲、そしてジュゼッペ・ヴェルディ（1813～1901）では《運命の力》序曲がそれに該当するだろう。これらは劇場にとどまることなく、オーケストラのコンサートでしばしば演奏される人気曲となっている。

1861年、ヴェルディのもとにロシアから新作オペラの依頼が届く。イタリアの国会議員に選ばれ、前作《仮面舞踏会》の初演から2年を経ていたヴェルディは、ふたたびオペラへの情熱を取り戻してこれを受諾する。新作の題材にはリバス侯爵アンヘル・デ・サーベドラの悲劇『ドン・アルヴァーロ、または運命の力』を選んだ。ヴェルディは精力的に筆を進め、新作《運命の力》を携えてロシアに向かう。ヒロイン役の歌手の降板でいったんは初演が延期されたものの、1862年11月の初演は大成功を収めた。しかし、ヴェルディは初演直後から作品を改訂するのを感じていた。1869年、あまりに絶望的な結末が書き改められた改訂版《運命の力》がミラノで上演され、ここでも成功を収めることとなった。現行の序曲はこの改訂版のために作曲されたものである。

侯爵の娘レオノーラと騎士ドン・アルヴァーロは相思相愛の仲。ふたりが駆け落ちしようとする際に、ピストルの暴発から侯爵が命を落とす。ふたりは離れ離れに逃げるが、復讐心^{ふくしゅう}に燃えるレオノーラの兄の追跡により、過酷な運命にさらされる。序曲の冒頭で鳴り響く金管楽器の重厚な強奏が悲劇を予告する。木管楽器が奏でる第4幕の二重唱、弦楽器による「祈りの動機」などを経て、緊迫感みなぎる怒涛^{どとう}のフィナーレへと突き進む。

〈飯尾洋一 音楽ライター〉

作曲：1861年、68～69年／初演（歌劇）：1862年11月10日、サンクトペテルブルク、マリインスキー劇場、改訂版初演：1869年2月27日、ミラノ・スカラ座／演奏時間：約8分
楽器編成／フルート、ピッコロ、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チンバasso、ティンパニ、打楽器（大太鼓、シンバル）、ハープ2、弦五部

3/5
名曲3/7
みなとみらい

Program Notes

シューマン ヴァイオリン協奏曲 二短調

1853年、ロベルト・シューマン(1810～56)は若きヴァイオリニスト、ヨーゼフ・ヨアヒムに出会う。ヨアヒムの^{てんぷ}天賦の才に創作意欲を刺激されたシューマンは、まずヴァイオリンと管弦楽のための幻想曲作品131に取り組み、その後、ヴァイオリン協奏曲を作曲する。創作意欲は依然として旺盛であったものの、彼は心身の健康を失いつつあった。翌年、激痛を伴う耳鳴りに苦しんでいた彼は、あるとき「天使が歌う」メロディを授かる。これをもとにピアノ曲〈天使の主題による変奏曲〉が書かれるが、この天使の主題とはヴァイオリン協奏曲の第2楽章で用いられたもの。シューマンは自ら創作した主題を天使の歌と錯誤したのである。変奏曲を浄書したシューマンは、自室を飛び出して、ライン川に架けられた橋から投身する。漁師に救われて一命を取りとめたものの、シューマンはエンデニヒの精神療養所に入所することを決める。

こうした騒動の後、クララ・シューマンとヨアヒムは作品の質に疑問を抱いたためか、ヴァイオリン協奏曲を封印する。療養所に入所したシューマンは2年後に世を去り、作品はいったん忘れ去られるが、20世紀になってからヨアヒムが所蔵していた楽譜が発見され、1937年になってようやく初演が実現した。

第1楽章は「力強く、速すぎず」。付点リズムが特徴的な荘重な第1主題で開始され、穏やかで憧憬に満ちた第2主題が続く。バロック風の骨格にシューマンならではの鬱屈したメランコリーと暗い情熱が充滿する。

第2楽章は「ゆっくりと」。繊細で夢幻的な緩徐楽章。前述の天使から授けられた主題が奏でられる。切れ目なく第3楽章に突入する。

第3楽章は「生き生きと、しかし速すぎず」。弾むような主題で開始され、舞曲風の典雅さを醸し出す。気まぐれに表情を変えながら愉悦のなかで曲を閉じる。

〈飯尾洋一 音楽ライター〉

作曲：1853年／初演：1937年11月26日、ベルリン／演奏時間：約33分
楽器編成／フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦五部、独奏ヴァイオリン

ブラームス 交響曲 第1番 八短調 作品68

シューマンはヴァイオリン協奏曲を書いた1853年に、ヨアヒムと並んでもうひとりの若き才能と出会う。それがヨハネス・ブラームス(1833～97)だ。シューマンの家を訪れた青年ブラームスはピアノ・ソナタ第1番を演奏し、シューマンに衝撃を与えた。「この若者は本当に驚くべき世界をあらわにした。……そこには変装した交響曲のようなソナタがあった」。しかし、ブラームスが交響曲を完成させたのは、それから20年以上も後のことである。

1855年、ブラームスは交響曲の作曲に着手したとシューマンに手紙で伝えた。だがこの構想は実現には至らず、作品はピアノ協奏曲第1番へと形を変えた。1862年、ブラームスはクララ・シューマンの前で交響曲第1番の第1楽章をピアノで弾いて聴かせている。この初期稿では第1楽章冒頭の重々しい序奏は添えられていない。その後、さらなる長い道のりを経て、ようやく1876年に作品が完成する。

ベートーヴェンの衣鉢を継ぐ交響曲として、初演は大きな期待をもって迎えられた。「大衆に好まれるというよりは厳粛な作品で、くりかえし聴くことが求められる」という初演の評からは、作品への敬意と若干の戸惑いが伝わってくる。

第1楽章 ウン・ポコ・ソステヌート～アレグロ ティンパニの連打を伴う緊迫感あふれる序奏に情熱的な主部が続く。

第2楽章 アンダンテ・ソステヌート 淡く柔和な弦楽合奏に寂寞としたオーボエのソロが続く。後半ではヴァイオリンのソロが活躍。

第3楽章 ウン・ポコ・アレグレット・エ・グラツィオーソ 通常なら3拍子のメヌエットかスケルツォが続くところだが、2拍子の流麗な楽章が配置される。

第4楽章 アダージョ～ピウ・アンダンテ～アレグロ・ノン・トロppo・マ・コン・ブリオ アルペンホルン風の旋律や弦楽合奏の歌謡主題等、多様な要素からなる壮麗なフィナーレ。

〈飯尾洋一 音楽ライター〉

作曲：1855年～76年／初演：1876年11月4日、カールスルーエ／演奏時間：約45分
楽器編成／フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦五部

ヒンデミット 主題と変奏〈4つの気質〉

4つの気質とは人間の性質を体液のタイプによって4つに分ける、古代ギリシャに発する考え方である。本作は主題と4つの変奏からなるが、それぞれの変奏にはこの4つの気質がタイトルとして与えられている。

パウル・ヒンデミット（1895～1963）は第一次世界大戦後のドイツに現れた新世代のスターだった。20歳でフランクフルトの歌劇場のコンサートマスターに就任するとともに、作曲家としてもオスカー・ココシュカの台本による〈殺人者、女たちの希望〉をはじめ、表現主義オペラでセンセーションを巻き起こす。その後も乾いた感性で斬新な作品を発表し、新音楽の旗手としての地位を確立した。

1930年代に入ると、彼は社会における音楽のありように関心を寄せるようになり、作風もストラヴィンスキーやバルトークなど同世代の作曲家と同様に新古典主義へと傾いていくが、折から成立したナチス政権からは退廃芸術家の烙印を押されてしまう。ドイツを代表するトップ音楽家とナチスとの軋轢は、オペラ〈画家マティス〉の上演を巡って指揮者フルトヴェングラーらを巻き込む、いわゆる「ヒンデミット事件」へと発展し、作曲家はスイス、さらにアメリカへと移り住むのである。

〈4つの気質〉はアメリカ亡命の直後に書かれた。きっかけは振付家のレオニード・マシーン（1896～1979）との協同作業である。マシーンとは聖フランチェスコをテーマとするジョットの絵画に想を得たバレエ〈気高き幻想〉で協同作業しており、ヒンデミット自身の指揮による初演は大きな成功を収めた。〈画家マティス〉もそうだが、オールドマスター（18世紀以前に活動していたヨーロッパの優れた画家）の名画はこの時期のヒンデミットにたびたびインスピレーションを与えている。後続の作品を望んだマシーンは、ブリュッゲル（父）の絵画に基づき人間の気質をテーマにした作品を提案した。

ちょうどこの時期、アメリカの大学から教職ポストへの誘いがかかり、激しくなる一方のヨーロッパの戦火に、ヒンデミットはアメリカ亡命を決意する。新しい環境になじめず筆も滞っているうちに、マシーンとの関係が決裂する。結局、新作の計画はモンテカルロ・ロシア・バレエ団を離れてアメリカに渡り、ニューヨークでバレエ団を旗揚げしていたジョージ・バランシン（1904～83）に移る。ヒンデミ

ットはブリュッゲルの絵画から離れて自らシナリオを考え、ピアノと弦楽合奏による変奏曲を仕上げた。音楽自体は純音楽的であり、特定のストーリーを持たない抽象的なバレエの先駆として評価されているので、あまり標題性にこだわる必要はないのかもしれない。

バランシンは1941年5月にこの舞台作品をニューヨークで初演する予定だったが、直前にアメリカ貨物船を護衛していた英国軍艦がドイツ軍に沈められ、敵国人であるヒンデミットへの風当たりも強くなったため、興行元が演目から外すという憂き目にあっている。結局バランシン振り付けのバレエが初演されたのは戦後のことだった。

曲は主題に、それぞれの気質を表す4つの変奏が続く。熟達した書法、過度の感情移入を避ける乾いた叙情などに、ヒンデミットの特徴がうかがわれる。

最初の楽章となる**主題**は3部構成となっており、まずは弦楽器にテーマの第1部が歌い出される。ピアノが入って急速な掛け合いとなる第2部を経て、やがてテンポが中庸に戻り、シチリアーノ風歌謡による第3部に移る。この3部構成は、後続の変奏でもおおむね保持される。**第1変奏「憂鬱質」**ではソロ・ヴァイオリンとピアノの緊迫した二重奏に始まり、弦楽器のみによる急速な中間部を経て、堂々とした行進曲に変わる。ワルツによる**第2変奏「多血質」**に続き、**第3変奏「粘液質」**では伴奏は弦楽四重奏に切り詰められ、ピアノと濃密な対話を繰り返す。**第4変奏「胆汁質」**はエネルギーに始まり、スケルツォ風の間部を挟んで輝かしいフィナーレを迎える。

〈江藤光紀 音楽評論家〉

作曲：1940年／初演：1943年3月10日、ヴィンタートゥール、舞台初演：1946年11月20日、ニューヨーク／演奏時間：約29分
楽器編成／弦五部、独奏ピアノ

※R. シュトラウス「交響詩〈英雄の生涯〉」の解説は13ページをご覧ください。

3/14

土曜マチネー

3/15

日曜マチネー

Program Notes

ベートーヴェン

ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73〈皇帝〉

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770～1827)は今年生誕250周年を迎える。ピアノ協奏曲第5番〈皇帝〉は、名高い作品が次々と生み出されたいわゆる「傑作の森」と呼ばれる創作期の楽曲である。〈皇帝〉という通称は本人がつけたものではないが、この曲のたたえる堂々とした風格はまさにその名にふさわしい。ベートーヴェンは近代的に改良され音量や音色の幅が飛躍的に向上したピアノを用いて、ドラマティックな作品を次々に創作していったが、ピアノの新たな可能性を十全に生かした本作の大胆かつ豪快な筆運びには、〈運命〉〈田園〉などを書き上げた後の自信もうかがえる。創作ジャンルのにも協奏曲としては最後の作品となるなど区切りをなしてもいる。

曲はベートーヴェンを経済的に支えてきたルドルフ大公に捧げられているが、この曲を作曲していた当時、ウィーンはナポレオン軍に占領され、ベートーヴェンを支援した貴族たちも一時的に街を逃れていた。ルドルフ大公もその例にもれず(ピアノ・ソナタ〈告别〉は、これをきっかけに作曲された)、ウィーンにとり残されたベートーヴェンのスケッチ帳には、闘いや勝利に関する言葉が書き込まれている。現実の苦境が創作の糧となるのはベートーヴェンにしばしば見られることだが、これもその一例といえようか。

第1楽章 アレグロ オーケストラがいきなり主和音を強奏すると、ピアノが豪華絢爛としたアルペジオを花咲かせる。序奏を即興風に始める意表をついた開始が実に効果的だ。第2主題はヴァイオリンがスタッカートで歌う。

第2楽章 アダージョ・ウン・ポーコ・モッソ 第1楽章とは対照的に抑制した美が際立つ。主題を変奏しながら進み、コーダは引き伸ばされた余韻の中から第3楽章のロンドのテーマが徐々に姿を現す。

第3楽章 ロンド アレグロ ロンド主題が第2楽章の静けさを突き破って、爆発的な歓喜を歌う。

〈江藤光紀 音楽評論家〉

作曲：1809～10年／初演：1811年11月28日、ライプツィヒ／演奏時間：約38分
楽器編成／フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦五部、独奏ピアノ

R. シュトラウス

交響詩〈英雄の生涯〉作品40

リヒャルト・シュトラウス(1864～1949)は初期に習作的な交響曲を書いた後、1880年代後半から90年代にかけて10年余りの間にシェイクスピア、ドイツの民話、ニーチェ、セルバンテスなど主に文学的なテーマに依拠した交響詩を次々と発表した。

〈英雄の生涯〉は7作に及ぶ一連の交響詩創作の最後を飾る作品だが、特定の文学的テキストやロマン派的な観念に拠るのではなく、近代における芸術家と社会の関係を、風刺や皮肉を利かせながら即物的に描いている。英雄や芸術家の描写はベートーヴェンの交響曲に始まり、ベルリオーズ〈幻想交響曲〉、ワーグナー〈マイスタージンガー〉に至る先例があるが、指揮者としても活躍していたR. シュトラウスは先人たちの仕事を踏まえながらも、それを様々な面で更新しようとしている。

まずは音響世界そのものの拡大。ヴァイオリンのソロをはじめソリストティックなフレーズが各所に現れる一方、編成を拡大して聴衆を圧倒する物量戦により、奥深い遠近感が追求されている。巨大オーケストラ上にモチーフをモザイク状に積み上げた絢爛たるサウンドは、他の追随を許さぬ職人芸だ。単一楽章ではあるが、各部には主題提示、スケルツォ、緩徐楽章、展開・再現といった構成上の役割が重ねられており、ストーリーと音楽形式が高度に結びつけられてもいる。

標題性の点から興味深いのは、「英雄」と言ってもロマン派的な英雄や孤高の芸術家のイメージとは距離があり、どこか覚めた目で戯画的に描かれている点だ。続いて作曲された〈家庭交響曲〉〈アルプス交響曲〉では自身のプライベートな体験により踏み込んでおり、長年望んでいたオペラでの成功を〈サロメ〉で手にすると、文学とのかかわりはオペラへとシフトしていく。20世紀に入りロマン派的な交響詩という器が時代にそぐわなくなってきたことを、R. シュトラウスのアンテナは敏感に掴んでいたのだろう。〈英雄の生涯〉はそうした点で創作の転換点を示すのみならず、世紀末という時代の区切りを画してもいるのである。

楽曲は大きく6つの場面から成るが、切れ目なく演奏される。“英雄”冒頭から幅広い音域にわたる勇壮な英雄の主題が提示され、フルートとヴァイオリンが展開する優美でなだらかなテーマが続く。この旋律はトリルなどによって華やか

3/12

定期

3/14

土曜マチネー

3/15

日曜マチネー

Program Notes

3/12
定期

3/14
土曜マチネー

3/15
日曜マチネー

Program Notes

に装飾されている。“英雄の敵”半音階で下行する木管楽器が不穏な空気を予兆し、チューバに平行5度の不気味なテーマが現れる。これは英雄の敵、すなわち評論家を表している。“英雄の伴侶”R. シュトラウスの妻パウリーネは優れたソプラノ歌手であった。ここではパウリーネの肖像を独奏ヴァイオリンで描いている。甘いフレーズを歌ったかと思えば、突然怒り狂ったりもして、その人柄がチャミングにとらえられている。中低音域に現れる旋律が、夫婦の愛の対話を暗示する。“英雄の戦い”舞台裏からトランペットが鳴り響き、敵との本格的な戦いが始まる。軍楽隊の勇ましいリズムに乗って英雄が敵を蹴散らした後は、過去の作品からのモチーフが次々と引用され英雄の勝利を暗示する。“英雄の業績”交響詩〈死と変容〉〈ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら〉、歌劇〈グントラム〉など自作からのフレーズが次々と引用され、英雄は作曲家本人であったことが暗示される。“英雄の引退と完成”引き続き過去の引用をちりばめながら穏やかな結尾を導く。

〈江藤光紀 音楽評論家〉

作曲：1898年／初演：1899年3月3日、フランクフルト・アム・マイン／演奏時間：約45分
楽器編成／フルート3、ピッコロ、オーボエ4（イングリッシュ・ホルン持替）、クラリネット2、エスクラリネット、バスクラリネット、ファゴット3、コントラファゴット、ホルン8、トランペット5、トロンボーン3、チューバ、テナーチューバ、ティンパニ、打楽器（大太鼓、シンバル、サスペンデッド・シンバル、小太鼓、テナードラム、トライアングル、銅鑼）、ハープ2、弦五部

《英雄の生涯》ソロ・ヴァイオリン

東京芸術大学、米・南メソディスト大学大学院、フライブルク音楽大学を経て、2008年ベルリン・コンツェルトハウス管の第1コンサートマスターに就任。13年4月に読響コンサートマスターに就任、17年4月からは特別客演コンサートマスターとして活躍している。日独両国でのオーケストラ活動に対し、両国の友好促進に大きな功績があったとして、15年に在ドイツ日本大使から「在外公館長表彰」を贈られた。日本音楽コンクール第1位、パガニーニ国際コンクール第2位。

日下紗矢子
(読響特別客演コンサートマスター)

SAYAKO KUSAKA,
YNSO Special Guest Concertmaster



良い音と過ごすために – Bluetooth®

スマートホンとヘッドホンがあれば、どこでも音楽を楽しめる時代になりました。音楽を聴くスタイルは人それぞれですが、今や音楽は生活の一部です。だからこそもっと音質にもこだわって欲しい。今、自宅が一番簡単に音楽を楽しむ方法と言えば、スマートホンとBluetooth®スピーカーの組み合わせでしょう。そして、通勤や通学で今流行している、耳に嵌めるだけでケーブルの無い完全ワイヤレスイヤホンもBluetooth®で接続されています。でもBluetooth®接続にもいろいろ種類があるのはご存じでしょうか。Bluetooth®では、限られたデータ転送量の中で音楽データを送信しなければならないため、コーデックという、音を圧縮してデータを節約する仕組みがあります。Bluetooth®スピーカーやヘッドホンの仕様にコーデックが書かれていない場合は、通常SBCというコーデックが使われています。ただ、このSBCというコーデックは、遅延(音のずれ)も大きく、音質も最高とは言えません。これらを改善するためにAAC、Qualcomm aptX™、LDAC™など様々な高音質で低遅延のコーデックが開発され、今はBluetooth®でも高音質で音楽を楽しめる時代になりました。アンプやスピーカーを別々に揃えるセパレートタイプのオーディオも、今はBluetooth®対応の機種も多くなってきました。ティアックでは、リビングでも迫力のサウンドが楽しめる大型スピーカーを採用した一体型のWS-A70のほか、Bluetooth®対応の製品を多数ラインナップしています。Bluetooth®スピーカーやヘッドホンを選ぶ際は、対応コーデックも気にしてみてください。

TEAC

ティアックは1953年創業の日本のオーディオブランドです。

Bluetooth®ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. の所有物であり、ティアック株式会社は許可を受けて使用しています。Qualcomm aptX is a product of Qualcomm Technologies, Inc. and/or its subsidiaries. Qualcomm is a trademark of Qualcomm Incorporated, registered in the United States and other countries. aptX is a trademark of Qualcomm Technologies International, Ltd., registered in the United States and other countries. LDACおよびLDACロゴは、ソニー株式会社の商標です。



WS-A70

SBC AAC
リビングでもしっかり高音質。ネットワークも使えるハイエンドBluetooth®スピーカー



NR-7CD

SBC AAC X Qualcomm aptX LDAC
Bluetooth® ネットワーク。そしてCDも聴ける。スピーカーをつなぐだけで使えるオールインワンオーディオ



NT-505

SBC AAC X Qualcomm aptX X Qualcomm aptX HD LDAC
ネットワーク機能を駆使して音源を一元管理できるメディアプレーヤー機能のほか、ストリーミング再生にも対応



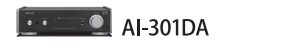
UD-505

SBC AAC X Qualcomm aptX X Qualcomm aptX HD LDAC
PCを音楽プレーヤーに。USB接続で高音質再生が可能。高音質ヘッドホンアンプも搭載



AI-503

SBC AAC X Qualcomm aptX LDAC
パワーアンプ部にICEpowerを搭載したUSB DAC 複合機



AI-301DA

SBC AAC X Qualcomm aptX
高音質ながらコンパクトで置き場所を選ばないプリメインアンプ。テレビとの相性も抜群です

各製品の詳細はこちらのQRコードから、または
teac.jp/jp



ヴァイグレのヘトリスタンとイゾルデと ヒンデミットの館

池田卓夫



ヴァイグレが音楽総監督を務めるフランクフルト歌劇場の外観 ©Barbara Aumüller

室内楽美に徹した〈トリスタンとイゾルデ〉 新演出の大成功

読売日本交響楽団（読響）常任指揮者のセバスティアン・ヴァイグレは2008年から12シーズンにわたり、ドイツ・ヘッセン州のフランクフルト歌劇場（Oper Frankfurt）の音楽総監督（GMD＝Generalmusikdirektor）を務めてきた。1982年に旧東ベルリンのハンス・アイスラー音楽大学を卒業後、ベルリン国立歌劇場GMDのオトマール・スウィトナーがシュターツカペレ・ベルリンの首席ホルン奏者に採用して15年間その職責にあり、その間来日もしている。90年の東西ドイツ統一後、92年にGMDを引き継いだダニエル・バレンボイムはヴァイグレの指揮者としてのポテンシャル（潜在能力）を見抜き、97年に第1カベルマイスター（楽長）に抜擢^{ぼってき}、98年の日本ツアーでモーツァルト『魔笛』の一部公演の指揮を委ね、日本での指揮者デビューの後押しもした。

私は統一前後の4年間でフランクフルトで過ごし、帰国後はベルリン国立歌劇場日本公演主催者の社員として宣伝記事制作にも携わった者として、統一後に経済、精神の両面で西（ヴェスト）の“勝者”が東（オスト）の“敗者”を見下し“お荷物”扱いするような場面にいくわすたび心を痛めてきた。バレンボイムに意見を求めると、

「現実には勝者も敗者もいなかった。東西冷戦という戦後社会の構造自体が崩壊しただけなのに、歴史判断を見誤ったのだ」と、冷静だった。そんな社会のシュティムング（風潮）の中、一時はヴェストの富の象徴だった国際金融都市フランクフルト・アム・マインのオペラハウスで、オスト出身のヴァイグレが根気よくオーケストラをトレーニングし、かつて聴いたことがないほど深みのある音色と輝きを引き出し、専門誌『オーパンヴェルト（オペラの世界）』の年間最優秀歌劇場、最優秀オーケストラ、最優秀指揮者に何度も選ばれてきた実績は瞠目^{どうもく}に値する。カーテンコールや終演後のレストランでヴァイグレに注がれる歓声、称賛、愛着の数々はドイツ統一の最も美しい成功例かもしれない。

2020年1月19日、すでにワーグナーの全13オペラの舞台上演指揮と録音を達成しているヴァイグレがドイツの若手女性演出家カタリーナ・トーマと組み、〈トリスタンとイゾルデ〉の新制作を初演した。“前奏曲”が始まった瞬間、フランクフルト歌劇場管弦楽団の目覚ましい表現力、室内乐的に緻密な音の溶け合いに耳を奪われた。トーマの演出は象徴的な舞台装置と光や衣装の色彩の微細な変化で登場人物の内面を際立たせ、管弦楽の室内楽志向と表現ベクトルを一致させた。「京都の石庭みたいですね」とヴァイグレに感想を述べると、「気づかなかったけど、確かに!」と喜ばれた。

トリスタンのヴィンセント・ヴォルフシュタイナー（テノール）はこの劇場の専属歌手で、声楽面の不調を逆にとりテキストの「語り」に徹したのが当たり、一筋縄ではいかない人物像の造形に成功した。イゾルデはヴァイグレが「3年前に発見した」という若い英国人、レイチェル・ニコルズ（ソプラノ）。「いかにも強靱^{きょうじん}で巨声、大きな体格の“ドイツ風”ドラマティック・ソプラノとは全く異なり、繊細で美しい容姿に恵まれ、今回の演出・演奏の解釈には最適のイゾルデです」とヴァイグレが指摘する通り、第1幕の登場場面からして「死」に深く魅せられ、周囲に対して



トリスタン（右）とイゾルデ ©Barbara Aumüller

心を閉ざした「お姫様」のキャラクターを第3幕大詰め“愛の死”に至るまで、全身全霊で演じた。



イゾルデ (右) とブランゲーネ ©Barbara Aumüller

常設歌劇場が何か月もかけ新演出を制作するメリットは、専属歌手のアンサンブルが一段と緊密になり、小さな役に至るまで人物像が明確に浮かび上がる点でも指摘できる。マルケ王のアンドレアス・パウアー・カナバス (バス)、クルヴェナルのクリストフ・ポール (バリトン)、メロートのイエイン・マクニール (同)、ブランゲーネのクラウディア・マーンケ (メゾ・ソプラノ) ら、周囲を固める歌手たちも粒ぞろいだった。あと一人名前を挙げるとすれば、牧人を歌ったオペラスタジオ研修生の中国人テノール、チャンジ・リン。長身と美声で、確かな印象を残した。(ちなみにニコルズとマーンケは読響の2015年の〈トリスタンとイゾルデ〉と、2019年の〈グレの歌〉に出演している)

だが最大の賞賛はやはり、GMD ヴァイグレと彼のオーケストラに捧げられよう。「〈トリスタンとイゾルデ〉における憧れ、浄化、救済のニュアンスはクレッシェンド(漸増)とデクレッシェンド(漸減)の間に隠された微細な音量の増減に、多くが委ねられています。私は好奇心旺盛で絶え間ない向上心の塊、いつも指揮者と議論しながら音楽をつくるオーケストラの音楽家たちと一つ一つ、こうした楽譜の秘密を解き明かし、ピットで再現する作業を12年間、喜びとともに続けてきたのです」とヴァイグレは語る。私たち日本の音楽関係者が望むのは、ヴァイグレがフランクフルトで達成した高く、新しい次元の管弦楽の理想を読響でも実現してくれることに尽きる。

すでに東京二期会主催公演でR.シュトラウスの〈ばらの騎士〉と〈サロメ〉の2度、読響を舞台上演のピットで指揮したが、定期演奏会などで純粋なシンフォニープログラムを指揮する場面であっても、ヴァイグレが歌劇場で鍛えたドラマティックな感覚は際立っている。「私にとっては、どんな小さな交響曲でも“オペラ”なのです。より積極的に、ドラマティックに振ることを心がけています。歌手がいても、いなくても同じです。私には指揮する作品に対する明確なビルト (Bild=画像、あるいはヴィジョンと訳すべきか?) が必ずあって、オペラでもシンフォニーでも自身の信じ

るビルトに沿って最大限、振幅の大きなドラマを描こうと努めています」。読響との共同作業が深まるにつれ、さらにドラマティックでスリリングな音楽が現れることに期待しよう。

ヒンデミット旧居の近くに住むヴァイグレ

今年(2020年)はルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770~1827)の生誕250周年だけでなく、パウル・ヒンデミット(1895~1963)の生誕125周年にも当たる。ヒンデミットはフランクフルトに近いヘッセン州ハーナウで貧しい職人一家に生まれたが、音楽好きの父は子どもたちに厳格な音楽教育を施し、パウルは早くに傑出した能力を示した。フランクフルトでは篤志家のヨーゼフ・ホッホ博士が1878年に創立した「Dr.ホッホ音楽院」が、貧しくても才能のある青少年に対して無償でプロ音楽家への教育機会を提供、ヒンデミットも13歳で入学した。最初はヴァイオリンで頭角を現し、1915年にフランクフルト歌劇場管弦楽団に入団。指揮者ルートヴィヒ・ロッテンベルクの娘ゲルトルートと結婚し、ベルリン高等音楽院の作曲科教授に転出する1927年までフランクフルト市内に在住した。この頃はヴァイオリンがヒンデミットの楽器となり、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団コンサートマスターだったシモン・ゴルトベルク(ヴァイオリン)、エマヌエル・フォイアマン(チェロ)との弦楽三重奏でも高い評価を得た。

ヒトラー率いるナチス(国家社会主義ドイツ労働者党)が1933年に政権を掌握すると、指揮者ヴィルヘルム・フルトヴェングラーらの擁護にもかかわらず「退廃芸術」の烙印を押されたヒンデミットはスイスへ移住、1939年に第二次世界大戦が勃発するとアメリカへ亡命してイエール大学教授に就いた。1951年にヨーロッパ楽壇に復帰、チューリヒ大学やウィーン音楽院で作曲を教える一方、ヴァイオリン奏者、指揮者としても活動を展開、1956年にはウィーン・フィルハーモニー管弦楽団初の日本公演を指揮した。親族が暮らすフランクフルトへも頻繁に帰省し、1963年11月にスイスの自宅で倒れたときもフランクフルトの病院へ検査を受けに訪れ、そのまま12月28日に亡くなった。

セバスティアン・ヴァイグレが暮らすフランクフルトの古い下町ザクセンハウゼン地区には、ヒンデミット一家が1923年に入居した旧城壁の一部をなす歴史的建造物、「クーヒルテントウム (Kuhhirtenturm=牛飼いた)」が「ヒンデミット・

カビネット (Kabinett=小部屋)」として2011年に改修され、ヒンデミット関係の展示と演奏会に活用されている。入館料3ユーロ (約360円)、日曜日にだけ開くので、今回の〈トリスタンとイゾルデ〉初日の1月19日の朝、訪れることができた。館内には作曲家の足跡の詳細な記述と写真のほか、「ヴィオラ以上に愛した」というピリオド楽器 (古楽器) のヴィオラ・ダモーレの実物がデンと置かれている。とりわけ目を引いたのは、ヒンデミットが戦後のウィーンで古楽復興運動の先頭に立ち、当時考えられる限りのピリオド楽器を集めてモンテヴェルディの歌劇〈オルフェオ〉の上演を指揮した際、ニコラウス・アーノンクールがチェロ奏者で参加していたという1行。いかにヒンデミットの貢献が大きかったかについて、アーノンクールの証言も添えられていた。作曲と指揮、演奏のあらゆる分野で、ヒンデミットは時代の先端を走る音楽家だった。



ヒンデミット・カビネット (筆者提供)



ヒンデミットが愛したヴィオラ・ダモーレ (筆者提供)

ヴァイグレが読響と2020年3月に主題と変奏〈4つの気質〉、2021年1月に交響曲〈画家マティス〉を指揮するのも、「フランクフルトの音楽家」としてのヒンデミットを強く意識したものだ。彼は「最初はあまりにも無駄なく、がっちり構成されている音楽に距離感を抱いていました」と打ち明ける。いくつかの作品を手がけるうち、「最初の4〜5小節でヒンデミットの音楽とわかる強い個性、厳格さの背後に潜む温かさに気づき、惹き込まれたのです」と今は「フランクフルトの先輩」に深く傾倒する。「日本の歌手たちはドイツ語歌唱に秀でているので、いつかはヒンデミットのオペラも読響と演奏してみたいと思います」。ヒンデミットは近い将来、ヴァイグレと読響の「売り物」になるような予感がある。

〈いけだ たくお・音楽ジャーナリスト@いけだく本舗®〉

大切な楽器の輸送は、松田におまかせください。

プロの実績

交響楽団の楽器を輸送して50余年の実績。

国宝級の美術品輸送も経験豊富です。

プロの技

空調完備の専用車をご用意。

デリケートなピアノ・楽器・美術品を万全な体制でお届けいたします。

美しい音色を届ける、
タクトを振りたい。



物流のコンダクター

松田運送株式会社

本社 〒105-0004 東京都港区新橋6丁目4番8号 ☎ 03-3432-1911

4月の公演

スイスの巨匠ヴェンツァーゴが読響初登場、ブルックナーの神髄に迫る



4/8 水 第597回 定期演奏会
サントリーホール 19:00

指揮＝**マリオ・ヴェンツァーゴ**
ヴァイオリン＝**シモーネ・ラムスマ**
バーバー：ヴァイオリン協奏曲
ブルックナー：交響曲 第3番〈ワグナー〉(第3稿)

“炎のマエストロ”が魂を込めるベートーヴェン〈英雄〉

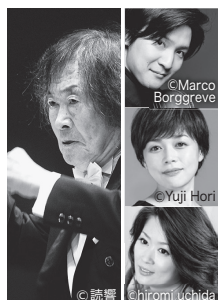


4/25 土 第226回 土曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール 14:00

4/26 日 第226回 日曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール 14:00

指揮＝**小林研一郎**(特別客演指揮者)
ヴァイオリン＝**福田廉之介**
サン＝サーンス：ヴァイオリン協奏曲 第3番
ベートーヴェン：交響曲 第3番〈英雄〉

祝80歳！ 小林研一郎が名手たちと奏でる三重協奏曲



4/28 火 第631回 名曲シリーズ
サントリーホール 19:00

4/29 水・祝 第119回 みなとみらいホリデー名曲シリーズ
横浜みなとみらいホール 14:00

指揮＝**小林研一郎**(特別客演指揮者)
ヴァイオリン＝**成田達輝**
チェロ＝**遠藤真理**(読響ソロ・チェロ)
ピアノ＝**小林亜矢乃**
ベートーヴェン：〈エグモント〉序曲
ベートーヴェン：三重協奏曲
ベートーヴェン：交響曲 第7番

4月公演の聴きどころ

4/8《定期》 新シーズンの開幕は、スイスの指揮者ヴェンツァーゴが1988年以来32年ぶりに来日し、ブルックナーの交響曲第3番を取り上げる。ヴェンツァーゴは、これまでにハイデルベルク歌劇場の音楽監督、グラーツ管、バーゼル響、エーテボリ響などの首席指揮者を歴任し、現在はベルン響の首席指揮者兼芸術監督を務める名匠だ。室内オーケストラを起用したブルックナーの交響曲全集のCDで話題を呼んだマエストロが、鮮烈な切り口で作品の奥深さを満喫させてくれるだろう。前半はオランダの名花ラムスマが、アメリカの作曲家バーバーのヴァイオリン協奏曲で共演、終楽章では華やかに超絶技巧を繰り広げる。

4/25、26《土日マチネー》 4月に80歳を迎える特別客演指揮者・小林研一郎が登場し、ベートーヴェンの交響曲第3番〈英雄〉を指揮する。毎年大晦日には全交響曲連続演奏会の指揮をするなど、ベートーヴェンを得意とする小林が、一音一音に熱い魂を込め傑作を風格豊かに聴かせてくれる。ドラマティックで美しいメロディーがあふれるサン＝サーンスのヴァイオリン協奏曲第3番では、2018年にハノーファー国際コンクールで入賞した福田廉之介がソロを務める。スイスで研鑽を積む20歳の気鋭が、情熱的に壮麗なフィナーレを歌い上げるだろう。

4/28《名曲》、4/29《みなとみらい》 ベートーヴェンの生誕250周年を祝うアニバーサリー・イヤーを記念し、“炎のマエストロ”小林研一郎がオール・ベートーヴェン・プログラムをお送りする。3人のソリストを要するため演奏される機会が少ない〈三重協奏曲〉を聴けるのは貴重。エリザベート王妃国際コンクール第2位の新鋭ヴァイオリニスト成田達輝、読響が誇るソロ・チェロ奏者の遠藤真理、深い音楽性を追求し続けている小林亜矢乃の3人の競演とオーケストラとの掛け合いが楽しみだ。また、リズムが特徴的でベートーヴェンの交響曲の中でも人気の第7番では、小林が熟達のとくを披露し音楽の喜びを爆発させる。

(文責：事務局)

お申し込み・お問い合わせ

読響チケットセンター 0570-00-4390 (10時～18時・年中無休) <https://yomikyo.or.jp/>

新時代の旗手・鈴木優人が振るベリオ&シューベルト



5/13 水 第598回 定期演奏会
サントリーホール 19:00

指揮＝鈴木優人 (指揮者/クリエイティブ・パートナー)

トランペット＝マティアス・ヘフス

シューベルト：交響曲 第4番〈悲劇的〉

ペーメ：トランペット協奏曲

ベリオ：レンダリング～シューベルトの未完の断片を用いて～

イギリスの新鋭グラスバークが描くシベリウスの雄大な世界



5/19 火 第632回 名曲シリーズ
サントリーホール 19:00

指揮＝ベン・グラスバーク

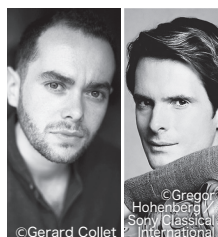
ピアノ＝ペーター・レーゼル

フンパーディンク：歌劇〈ヘンゼルとグレーテル〉序曲

ベートーヴェン：ピアノ協奏曲 第1番

シベリウス：交響曲 第2番

“ハープの貴公子”メストレが共演！ 優雅なひとときへ誘う週末の午後



5/23 土 第227回 土曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール 14:00

5/24 日 第227回 日曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール 14:00

指揮＝ベン・グラスバーク

ハープ＝グザヴィエ・ドゥ・メストレ

モーツァルト：歌劇〈ドン・ジョヴァンニ〉序曲

ボワエルデュー：ハープ協奏曲

モーツァルト：交響曲 第31番〈パリ〉

ラヴェル：ボレロ

お申し込み・お問い合わせ

読響チケットセンター 0570-00-4390 (10時～18時・年中無休) <https://yomikyo.or.jp/>

桂冠指揮者カンブルランが鮮烈に響かせるヴァレーズの巨大作



6/9 火 第599回 定期演奏会
サントリーホール 19:00

指揮＝シルヴァン・カンブルラン (桂冠指揮者)

ドビュッシー：遊戯

細川俊夫：冥想 — 3月11日の津波の犠牲者に捧げる —

ドビュッシー：イペリア (管弦楽のための〈映像〉から)

ヴァレーズ：アルカナ

“色彩の魔術師”が振る〈ロミオとジュリエット〉&〈ダフニスとクロエ〉



6/13 土 第228回 土曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール 14:00

6/14 日 第228回 日曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール 14:00

指揮＝シルヴァン・カンブルラン (桂冠指揮者)

ピアノ＝マリアム・バタシヴィリ

チャイコフスキー：ピアノ協奏曲 第1番

プロコフィエフ：バレエ音楽〈ロミオとジュリエット〉から

ラヴェル：バレエ音楽〈ダフニスとクロエ〉 第2組曲

輝かしいフィナーレ！ カンブルランが鮮やかに描く〈展覧会の絵〉



6/19 金 第633回 名曲シリーズ
サントリーホール 19:00

6/21 日 第120回 みなとみらいホリデー名曲シリーズ
横浜みなとみらいホール 14:00

6/22 月 第26回 大阪定期演奏会
フェスティバルホール (大阪) 19:00

指揮＝シルヴァン・カンブルラン (桂冠指揮者)

ヴァイオリン＝三浦文彰

メシアン：キリストの昇天

コルンゴルト：ヴァイオリン協奏曲

ムソルグスキー (ラヴェル編)：組曲〈展覧会の絵〉

芸劇&読響ジュニア・アンサンブル・アカデミー 発表会



読響と事業提携している東京芸術劇場が、未来の演奏家を育てる事業として開催している「芸劇&読響ジュニア・アンサンブル・アカデミー」の発表会が2月2日の《日曜マチネーシリーズ》開演前に大ホールで行われました。「弦楽アンサンブル」をテーマにレッスンを重ねてきた小学4年生から高校2年生まで計31人の受講生が、ベートーヴェンの弦楽四重奏曲第4番（弦楽合奏）などを演奏。昨年の同発表会を聴いて感激した読響首席客演指揮者の山田和樹が、今回はスペシャル・ゲストとして指揮をし、フレッシュな才能たちと熱演を繰り広げました。

終演後に山田は、「皆さんは若く未来があります。それは希望があるということです。一緒に演奏中どんどん変わっていく皆さんに無限の希望を感じ、誇らしく思いました」と感想を述べ、熱いエールを送りました。

入退団のお知らせ



入団：金子亜未^{かねこ あみ}（首席オーボエ奏者）

金子亜未（首席オーボエ奏者）が2月1日付で入団しました。



退団：伝田正秀^{でん た まさひで}（コンサートマスター）

コンサートマスターの伝田正秀が、3月31日付で退団します。2014年4月にアシスタント・コンサートマスターとして入団後、18年4月にコンサートマスターに就任し、計6年にわたって活躍しました。最後のステージは3月14日・15日の《土日マチネーシリーズ》です。

●伝田氏からのメッセージ

心豊かなメンバーと過ごせた時間は極めて素敵で、誇りに感じ、恵まれた環境に心から感謝しています。このたび一身上の都合により退団致しますが、これからは皆さまとともに、読響を応援していきます。

鈴木優人が齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞

今年4月から読響の指揮者／クリエイティブ・パートナーに就任する鈴木優人が、第18回齋藤秀雄メモリアル基金賞（指揮部門）を受賞しました。この賞は、チェリスト・指揮者・教育者として高名な故・齋藤秀雄氏にちなみ、公益財団法人ソニー音楽財団が2002年に創設。若手音楽家の発掘・育成を目的に毎年チェリストと指揮者に贈られる賞で、2月3日に贈賞式が行われました。



チェロ部門で受賞した佐藤晴真氏（左）とともに

受賞にあたって鈴木は、叔父のチェリスト・指揮者である鈴木秀美氏から齋藤指揮法を学んだ思い出などを紹介。「インターネットやデジタル化による社会の目まぐるしい変化とは裏腹に、音楽を作る、あるいは演奏する人たちの、真に手作りで行われる音楽的な創造過程そのものはまったく変わっていないようにも思えます。バッハからベートーヴェン、そして齋藤先生や音楽家一人一人によって脈々と繋がってきた伝統をしっかりと受け継ぎつつ、新しい時代に向けての活動を頑張りたい」と今後の抱負を述べました。

2020年度読響会員特典CDのご案内

4月8日から7月までの間に読響主催公演の会場で、2020年度読響会員特典CDの引き換えを行います。特典CDは以下の2種類からお選びいただけます。

- CD1 ・ベートーヴェン：交響曲第3番〈英雄〉／指揮：セバスティアン・ヴァイグレ（常任指揮者）
[ライヴ録音：2019年5月24日、サントリーホール]
- CD2 ・ワーグナー：楽劇〈ニュルンベルクのマイスタージンガー〉第1幕への前奏曲／指揮：ヴァイグレ（常任指揮者）
 - ・モーツァルト：歌劇〈魔笛〉序曲／指揮：ヴァイグレ（常任指揮者）
 - ・ラモー（鈴木優人編）：歌劇〈優雅なインドの国々〉組曲／指揮：鈴木優人（指揮者／クリエイティブ・パートナー）
 - ・伊福部昭：SF交響ファンタジー第1番／指揮：山田和樹（首席客演指揮者）

[ライヴ録音：2019年5月26日、横浜みなとみらいホール ほか]

チケット発売情報

●2020年7月～9月シリーズ公演1回券

《定期》《名曲》《土曜マチネー》《日曜マチネー》《みなとみらいホリデー名曲》の2020年7月～9月の1回券を、**4月4日(土)**から会員優先、**4月11日(土)**から一般発売します。



ヴァイグレ 鈴木優人 尾高忠明 反田恭平 ヴィニツカヤ フィリップpens

常任指揮者のヴァイグレは7月に登場し、楽劇〈ワルキューレ〉第1幕(演奏会形式)など得意のワーグナー作品でオペラ指揮者としての手腕を発揮。ジークムント役のザイフェルトをはじめ豪華歌手陣が繰り広げる、世界最高峰の歌唱をご堪能ください。9月は指揮者/クリエイティブ・パートナーの鈴木優人が、ベートーヴェン・プログラムを披露。名誉客演指揮者の尾高忠明は、定評のあるイギリス音楽からウォルトンの交響曲第1番で壮大な世界を築きます。

また、躍進中のドイツの女性指揮者ピールマイアー、ウズベキスタン出身の気鋭・ショハキモフが客演。ソリストは、スケールの大きな音楽で人気の反田恭平、ベルリン・フィルとも共演する実力派ヴィニツカヤ、オランダの名花フィリップpens、日本を代表するチェリストの宮田大、ドイツの名手マンツが共演します。

●サマーフェス《三大交響曲》《三大協奏曲》1回券

8月に開催するサマーフェスティバル《三大交響曲》と《三大協奏曲》(会場：サントリートホール)のチケットを、**4月18日(土)**から会員優先、**5月9日(土)**から一般発売します。詳しくは読響ホームページなどをご覧ください。

お申し込み・お問い合わせ

読響チケットセンター 0570-00-4390 (10時～18時・年中無休) <https://yomikyo.or.jp/>

12月〈第九〉公演、テノール歌手決定のお知らせ

今年の12月15日～26日に開催するベートーヴェン〈第九〉公演のテノール歌手が、AJ・グルッカート(AJ Glueckert)に決まりました。

4月に読響に初登場するヴェンツァーゴがドイツ・マンハイムで刺激的なシューマンを披露

寄稿：矢崎裕一 (在ドイツ、ヴィオラ奏者)

1月16日、マンハイムにてマリオ・ヴェンツァーゴの指揮するラインラント＝プファルツ州立フィルの演奏会を聴きました。この楽団の歴代首席指揮者には、スウィトナー、エッセンバッハ、セゲルスラムらが名を連ね、創立100周年の今シーズンから英国の若手マイケル・フランシスが首席指揮者を務めています。

曲目は、シューマンの交響曲第4番をメインに据え、前半にフィンランドの2曲、シベリウスの交響詩〈フィンランディア〉とソリストに小菅優を迎えてのマグヌス・リンドベルイのピアノ協奏曲第2番(ドイツ初演)というもの。

音色の変化に富んだ美しい響きを聴かせた〈フィンランディア〉に続き、リンドベルイ作品では、小菅の独奏が圧倒的。複雑で技巧的なソロで、深く柔軟な音楽性を披露しました。ヴェンツァーゴは管弦楽を立体的に鳴らし、細部まで神経を行き届け、曲の魅力を十二分に伝えていました。

後半のシューマンの4番。この曲は彼の指揮で15年前に自分も演奏した事があり、ユニークな彼の解釈は印象に残っています。基本的には当時と同じコンセプトでした。時折ノンビブラートの透明感ある響きでハーモニーの動きをより強調して聴かせたり、目一杯の音の強弱と自由なテンポの緩急を使い、19世紀ロマン派的な感情の強い発露を表現している点が印象的でした。同時に、徹底して小さなモチーフを丁寧に表現し、それを強烈な集中力をもって一つ一つ積み上げて音楽を作り上げます。その結果、持続する緊張感や曲全体を通しての統一感、そして構成感が生み出されていました。また、リズムの切れ味が良く、音楽は常に生き生きとしています。音楽に没入し、最後まで一気に情熱的かつ冷静に作品を描いてゆく様は見事でした。

演奏会翌日、ヴェンツァーゴのご自宅を訪れると「32年振りに訪れる日本で、ブルックナーを演奏できることは本当に楽しみ」と笑顔を見せ、「ブルックナーの音楽は謙虚で、少し控えめなところが好き。交響曲第3番はモーゼが十戒の石板を持って現れるような厳格さを持ちながら、コラールなど聖母マリアを表現したような女性的な美しさがある」と読響との演奏に向けて意欲を語ってくださいました。



マリオ・ヴェンツァーゴ

0テレ

読響シンフォニックライブ

月1回放送 [BS日テレにて地上波放送の翌週土曜日再放送]

3月19日(木)

午前2:34~3:34 (水曜深夜) 放送予定
[再放送] BS日テレ 3月28日(土)
朝7:00~8:00放送予定

指揮=大友直人

ホルン=松坂隼、日橋辰朗
矢野健太、伴野涼介

シューマン:4本のホルンと管弦楽のための
コンツェルトシュテュック ほか



公開録画の模様から ©NTV

3月の放送は、読響ホルンセクションによるシューマンのコンツェルトシュテュックをお送りします。結束力の高いホルンメンバー4名とオーケストラの、息の合った演奏をお楽しみください。

放送内容は変更の可能性がありますのでご了承ください

<http://www.ntv.co.jp/yomikyo/>

「読響シンフォニックライブ」ホームページ

番組情報・公開録画のお知らせもコチラから

読響の演奏動画は10月からhuluで配信!

シェーンベルク:グレの歌 指揮=シルヴァン・カンブルラン 全曲配信
ベートーヴェン:交響曲第9番〈合唱付き〉 指揮=マッシモ・ザネッティ

*ほかにも読響の熟演を順次ノーカットで配信予定!

4月16日(木)

午前2:29~3:29 (水曜深夜) 放送予定
[再放送] BS日テレ 4月25日(土)
朝7:00~8:00放送予定

指揮=大友直人

ドヴォルザーク:交響曲 第8番 ほか



大友直人 ©Rowland Kirishima

近著『クラシックへの挑戦状』が話題騒然、大友直人の「ドボ8」。ボヘミアの田園を想わせる明るい曲想とハーモニー、そして圧巻のコーダ! 気鋭のマエストロ、渾身のタクトにご期待ください。

Column

プロデューサー日記

35年越しの念願がついに!

清水真美子 日本テレビ「読響シンフォニックライブ」プロデューサー

いよいよ3月、卒業や進級など年度の締めくくりですね。私事ですが、我が家の末っ子もこの春保育園を卒園し、小学生に。保育園生活は、中1の姉の乳児期から考えると通算13年に及び、ついに保育園の送迎から卒業と思うと、解放感でうれしいような、ちょっと寂しいような。毎度卒園式では、子供は別れの実感がないのか、新たな生活へのウキウキ感が相まって、けろっとしているのですが、親は子供の成長の過程が走馬灯のように駆け巡って、つい涙。特に子供たちの天使のような歌声は心に響いて、涙腺崩壊してしまいます。

また、3月は習っている合唱の発表会や、姉の管弦楽部の演奏会など、1年間の集大成になるイベントも控えていて、楽しみです。本番まで一生懸命練習し、緊張しながらも人前で合唱や合奏を披露するのは、本当に貴重な経験だな〜と改めて実感し、先生や周囲の皆さまに感謝すると共に、これからも末永く続けられることを願うばかりです。

さて、3月の「読響シンフォニックライブ」では、読響が誇る名ホルン奏者、松坂隼さん・日橋辰朗さん・矢野健太さん・伴野涼介さんがソリストとして登場。名匠・大友直人さんによる指揮で、読響初演奏となるシューマン〈4本のホルンと管弦楽のためのコンツェルトシュテュック〉をお送りします。この曲、実は今から35年前、当時の番組プロデューサーが提案したものの断念した経緯があり、番組にとっても念願の演奏がようやく叶ったもの。構成の新井鷗子さん(4月からみなとみらいホール館長に就任)も「4本のホルンの音色が温かく融和し、時に鋭く拮抗し、またある時は支え合い、その見事なアンサンブルは同じオーケストラの団員としてお互いの音を知り尽くしているからこそなのでしょう」と絶賛。ホルン4人×読響×大友直人さんによる息の合った極上の演奏を、35年の思いを込めて、臨場感あふれる“映像”と“音”でお届けしますので、ぜひ最後までお楽しみください!

読売日本交響楽団 ご支援のお願い

読売日本交響楽団では、皆様方から広くご支援・ご声援をいただけるよう、個人賛助会員システムがございます。

日本を代表するオーケストラとしてさらに飛躍し、社会的な使命を果たすには、より多くの皆様からのご支援が必要です。読響が奏でる音楽によって心豊かな社会を共に作っていくために、ぜひとも賛助会員としてお力添えをお願い申し上げます。

■ 個人賛助会員 期間：ご入会月から1年間

	1口1万円	1口30万円
定期演奏会ご案内	—	○
主催公演 優先予約 ※1	○	○
主催公演チケット 優待販売 ※1	○	○
公開リハーサル ※2	○	○
読響シンフォニックライブ公開録画 入場引換券 ※3	○	○
プログラム誌・HP 芳名記載	○	○

※1 対象外の公演もございます。

※2 年間2回を予定しております。1口1万円につき、1名様のご案内となります。

※3 席数限定でのご用意となり、応募者多数の場合は抽選となります。

■ 法人賛助会員

1口30万円 期間：ご入会月から1年間

〈税制上の優遇措置について〉

読売日本交響楽団は内閣府より「公益財団法人」の認定を受けており、当楽団へのご寄付には税制上の優遇措置がございます。詳細は賛助会員担当にお尋ねください。

賛助会員 お問い合わせ・お申し込み

公益財団法人読売日本交響楽団 賛助会員担当

TEL: 03-5283-5215 (平日 10:00~17:00)

E-mail: support@yomikyo.or.jp

賛助会員名簿 (敬称略、五十音順)

いつもあたたかいご支援を賜り、ありがとうございます。

〈法人賛助会員〉

(2020年2月現在)

アサヒグループホールディングス(株)
イオン(株)
伊東国際特許事務所
HJホールディングス(株)
NTTコミュニケーションズ(株)
小田急電鉄(株)
キャノン(株)
(株)弘電社
(株)CS日本
(株)シミズオクト
清水建設(株)
新菱冷熱工業(株)
(株)スピンドル
(株)精養軒
大成建設(株)
(株)竹尾
(株)中央公論新社
(株)ティップネス
(株)電通
(株)東急ホテルズ
(株)東京ドーム
凸版印刷(株)
ニッセイ保険エージェンシー(株)
(株)日テレ アックスオン
日本コンピューターサイエンス(株)
日本テレビ音楽(株)
(株)ネロ楽器
蜂屋(株)

びあ(株)
(株)BS日本
非破壊検査(株)
(株)フォアキャスト・コミュニケーションズ
文化シヤッター(株)
(株)ベスト・ワン保険
(株)報知新聞社
松田運送(株)
丸一商店(株)
(株)みずほ銀行
(株)三井住友銀行
(株)三菱地所設計
(株)目の眼
望月印刷(株)
森平舞台機構(株)
安田不動産(株)
(株)大和通信社
ユニデンホールディングス(株)
(株)読売IS
(株)読売エージェンシー
(株)読売巨人軍
(株)読売広告社
(株)読売システック
読売不動産(株)
(株)読売プラス
(株)よみうりランド
(株)読売旅行
ローム(株)

ほか2社

〈個人賛助会員〉

鈴木 勝康
K・K
H・S
K・T

ほか1名

穴原 謙
雨宮 靖和
荒井 顕祈
石坂 廬
石田 米和
石引 瑞枝
稲富 武二
井上 直人
井上 洋美
猪木 武徳
今西 至
岩瀬 順子
臼井 年胤
宇田川 昌子
大木 茂男
大塚 啓一
大塚 具幸
大湯 淳功
岡本 耕治
荻野 郁代
小倉 嘉五郎
小野 悦男

香取 嘉信
金子 圭一
上村 昌彰
木下 盛弘
木村 幸男
草間 和幸
熊坂 久雄
好士崎 稔子
鴻巣 俊之
後上 友美
小納谷 秀秋
小林 京子
小林 敬和
小林 宏慈
小林 佳子
齋藤 将隆
齋藤 正博
坂元 隆
柴田 栄一
末松 直也
高井 雅彦
高倉 淳
高仲 裕樹
高橋 光子
高山 幸子
竹内 牧
谷口 豊
谷山 信

坪井 和音
戸田 晴久
富永 英義
鳥越 久里
仲井 淳一
中山 精一
新倉 啓介
西澤 豊
根本 直之
濱尾 仁
濱田 正己
林 路郎
原田 潤
福本 邦彦
藤澤 光昭
藤島 秀憲
船田 喜久子
堀 哲也
松尾 十作
松島 常
松田 彩
松田 政信
松野 良子
溝部 信夫
宮本 嗣巳
目黒 義信
矢向 真
安富 康男

(2020年2月現在)

安村 真寿美
山際 茂雄
山越 章弘
吉田 幸三
竜 夏美
若田部 矩弘
脇 映夫
渡辺 敦郎
誠司・眞実子
A. H
A. K
K. I
K. S
K. Y
M. M
M. M
M. N
M. O
T. N
T. O
T. Y
Y. N
Micky
nakaga8
Ryu. S
YAMASUGA

ほか31名

賛助会員(個人)の税制上優遇措置について

読響へのご寄付は、確定申告を行っていただくことで税制上の優遇措置を受けることができます。2019年10月25日以降のご寄付は、従来の「所得控除」の他に「税額控除」を選択できるようになりました。

また、都道府県・市区町村によっては、個人住民税控除の対象となる場合があります。

東京芸術劇場主催公演のご案内

コンサート・カレンダー | 2020 | 3-4 | Concert Hall | 読響

東京芸術劇場と読売日本交響楽団は事業提携を行っています。

芸劇&読響 「0才から聴こう!!&4才から聴こう!!」春休みオーケストラコンサート

出演

指揮：沖澤のどか
サクソ：金野龍篤*

(読劇ウィンド・オーケストラ・アカデミー)

ナビゲーター：小林よしひさ
管弦楽：読売日本交響楽団

共通プログラム

ドヴォルザーク／スラヴ舞曲 第1番ハ長調
メンデルスゾーン／劇音楽『真夏の夜の夢』から「結婚行進曲」
モンティ／チャルダッシュ*
外山雄三／管弦楽のためのラブソディ

曲目

0才プログラム

三木たかし／アンパンマンのマーチ*
J. シュトラウス1世／ラデツキー行進曲
J. シュトラウス2世／ポルカ「観光列車」

4才プログラム

ミヨー／「スカラムーシュ」から第3曲*
ブラームス／ハンガリー舞曲 第1番ト短調
チャイコフスキー／バレエ音楽『くるみ割り人形』から「あし笛の踊り」

3.31 [火] *各回入替制・50分公演(休憩なし) ①回目 11:30 (0歳から入場可) ②回目 13:30 (4歳から入場可)

全席指定(税込) | S: 3,500円 A: 2,500円 こども(3才以上小学生まで): 1,000円 (S席・A席共通)

1回目 0才から入場できます。保護者の膝の上の場合、2才まで無料。(ただし、保護者1名につき子ども1名まで) 座席を必要とする場合は、チケットが必要となります。
2回目 4才から入場できます。(3才以下の入場不可・全席有料)

●一般料金のチケットでお子さまが入場されても差額の返金はできません。●こども料金のチケットで一般の方がご入場される際には、公演当日に受付で差額のお支払をお願いいたします。
●ベビーカー置場とおむつ交換スペース、授乳室を用意しております。●客席での飲食はできませんのでご了承ください。

海外オーケストラシリーズ

アルトゥーロ・トスカニーニ・フィルハーモニー管弦楽団

出演

指揮：ミハエル・バルケ
ソプラノ：アレックス・ベンダ テノール：カメン・チャネフ
管弦楽：アルトゥーロ・トスカニーニ・フィルハーモニー管弦楽団

曲目

ヴェルディ／歌劇『運命の力』序曲
ヴェルディ／歌劇『マクベス』から「勝利の日に〜来たれ、急いで」
(マクベス夫人のアリア)
歌劇『イル・トロヴァトーレ』から「見よ、恐ろしい炎を」
(マンリコのカヴァレッタ)
プッチーニ／歌劇『トスカ』から「歌に生き、恋に生き」(トスカのアリア)
「星は光りぬ」(カヴァラドッシのアリア)
ヴェルディ／歌劇『仮面舞踏会』から「私は君の傍らに…」(愛の二重唱)
ブラームス／交響曲第1番ハ短調

4.30 [木] 19:00 開演

全席指定(税込) | S席 9,500円 A席 7,500円 B席 5,000円
C席 4,000円 D席 3,000円 SS席 12,000円

*高校生以下1,000円(枚数限定 要証明書 東京芸術劇場ボックスオフィスのみ取扱)

東京芸術劇場

〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1 [JR・東京メトロ・東武鉄道・西武鉄道「池袋駅」西口徒歩2分(池袋駅地下2b出口と直結)]

チケット取扱/お問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス TEL: 0570-010-296 (休館日を除く10:00~19:00) <https://www.geigeki.jp/>

※未就学児入場不可。(「春休みオーケストラコンサート」を除く)
※やむを得ぬ事情により、出演者・曲目等に変更が生じる場合がございます。
※公演中止以外のいかなる場合でも、チケットのキャンセルはいたしません。

託児サービスのご案内 東京芸術劇場でご鑑賞の際には、一時託児をご利用いただけます。
[託児サービス事業委託会社] HITOWA キャリアサポート株式会社 わらべうた
0120-415-306 (土・日・祝日を除く平日 9:00~17:00) ※有料・定員制・希望日1週間前(土・日・祝日を除く)までに要予約。

Conductor

指揮者陣



常任指揮者
セバスティアン・ヴァイグレ
Sebastian Weigle



首席客演指揮者
コルネリウス・マイスター
Cornelius Meister



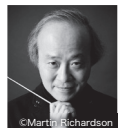
首席客演指揮者
山田 和樹
Kazuki Yamada



桂冠指揮者
シルヴァン・カンブルラン
Sylvain Cambreling



名誉指揮者
ユリ・テミルカーノフ
Yuri Temirkanov



名誉客演指揮者
尾高 忠明
Tadaaki Otaka



特別客演指揮者
小林 研一郎
Ken-ichiro Kobayashi

Honorary Advisor

名誉顧問



高円宮妃久子殿下
Her Imperial Highness
Princess Takamado

Cocertmaster

コンサートマスター



コンサートマスター
小森谷 巧
Takumi Komoriya



コンサートマスター
伝田正秀
Masahide Denda



コンサートマスター
長原幸太
Kota Nagahara



特別客演コンサートマスター
日下紗矢子
Sayako Kusaka

Violin

ヴァイオリン



瀧村依里(首席)
Eri Takimura



赤池瑞枝
Mizue Akaie



荒川以津美
Izumi Arakawa



伊東真奈
Mana Ito



井上雅美
Masami Inoue



太田博子
Hiroko Ota



小田 透
Toru Oda



鎌田成光
Narumi Kamata



川口亮史
Takashi Kawaguchi



久保木隆文
Takafumi Kuboki



小杉芳之
Yoshiyuki Kosugi



島田玲奈
Reina Shimada



杉本真弓
Mayumi Sugimoto



薄田 真
Makoto Susukida



高木敏行
Toshiyuki Takagi



武田桃子
Momoko Takeda



對馬哲男
Tetsuo Tsushima



寺井 馨
Kaori Terai



肥田与幸
Tomoyuki Hida



外園彩香(首席代行)
Ayaka Hokazono



宮内 晃
Akira Miyauchi



森川 徹
Toru Morikawa



山田耕司
Koji Yamada



山田友子
Yuko Yamada

Viola

ヴィオラ



ソロ・ヴィオラ
鈴木康浩
Yasuhiro Suzuki



ソロ・ヴィオラ
柳瀬省太
Shota Yanase



榎戸崇浩
Takahiro Enokido



小山貴之
Takashi Koyama



正田響子
Kyoko Shoda



富田大輔
Daisuke Tomita



長岡晶子
Akiko Nagaoka



長倉 寛
Hiroshi Nagakura



二宮隆行
Takayuki Ninomiya



三浦克之
Katsuyuki Miura



森口恭子
Kyoko Moriguchi



渡邊千春
Chiharu Watanabe



ソロ・チェロ
遠藤真理
Mari Endo



富岡廉太郎(首席)
Rentaro Tomioka



唐沢安岐奈
Akina Karasawa



木村隆哉
Takaya Kimura



芝村 崇
Takashi Shibamura



高木慶太
Keita Takagi



林 一公
Kazumasa Hayashi



松葉春樹
Haruki Matsuba



室野良史
Yoshifumi Muroto



渡部玄一
Genichi Watanabe



ソロ・コントラバス
石川 滋
Shigeru Ishikawa



大槻 健(首席)
Ken Otsuki



石川浩之
Hiroyuki Ishikawa



小金丸章斗
Akito Koganemaru



ジョナサン・ステファニアク
Jonathan Stefaniak



瀬 泰幸
Yasuyuki Se



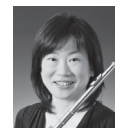
高山健児
Kenji Takayama



樋口 誠
Makoto Higuchi

Double Bass

コントラバス



倉田 優(首席)
Yu Kurata



フリスト・ドリノグ(首席)
Hristo Dobrinov



片爪大輔
Daisuke Katayama

Flute

フルート

Oboe

オーボエ



蠣崎耕三(首席)
Kouzou Kakizaki



金子亜未(首席)
Ami Kaneko



浦 丈彦
Takehiko Ura



北村貴子
Takako Kitamura

Clarinet

クラリネット



金子 平(首席)
Taira Kaneko



藤井洋子(首席)
Youko Fujii



鎌田浩志
Hiroshi Kamata



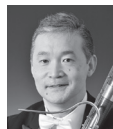
芳賀史徳
Fuminori Haga

Bassoon

ファゴット



井上俊次(首席)
Toshitsugu Inoue



吉田 将(首席)
Masaru Yoshida



岩佐雅美
Masami Iwasa



武井俊樹
Toshiki Takei

Horn

ホルン



日橋辰朗(首席)
Tatsuo Nippashi



松坂 隼(首席)
Shun Matsuzaka



上里友二
Yuji Uezato



伴野涼介
Ryoosuke Tomono



久永重明
Shigeaki Hisanaga



矢野健太
Kenta Yano



山岸リオ
Rio Yamagishi

Trumpet

トランペット



辻本憲一(首席)
Kenichi Tsujimoto



長谷川潤(首席)
Jun Hasegawa



田中敏雄
Toshio Tanaka



尹 千浩
Cheonho Yoon

Trombone

トロンボーン



青木 昂(首席)
Koh Aoki



栗田 晃(首席)
Akira Kuwata



葛西修平
Shuhei Kasai



篠崎卓美
Takumi Shinozaki

Tuba

チューバ



次田心平
Shimpei Tsugita

Timpani

ティンパニ



岡田全弘(首席)
Masahiro Okada



武藤厚志(首席)
Atsushi Muto

Percussion

打楽器



西久保友広
Tomohiro Nishikubo



野本洋介
Yosuke Nomoto



田島 勤
Tsutomu Tajima



館市正克
Masakatsu Tateichi



田村博文
Hirofumi Tamura



辻 功
Isao Tsuji



津田哲弥
Tetsuya Tsuda

エルダー楽員



福田高明
Takaaki Fukuda



望月寿正
Toshimasa Mochizuki

契約団員：小形 響(ヴァイオリン、～3月5日)、佐藤友美(フルート)

©読響(特記以外)

役員	理事長	古本 朗				
	常任理事	津村 浩	石澤 顕			
	理事	一本 哉	梅田尚哉	大石久和	亀山郁夫	小石川伸哉
		酒巻和也	齋藤 理	武野一起	福地茂雄	前木理一郎
		山口多賀司				
監事	評議員	廣瀬健一	村岡彰敏			
		池辺晋一郎	江利川毅	老川祥一	大久保好男	大橋善光
		岡村 正	川畑年弘	小杉善信	相良朋紀	佐藤 謙
		但木敬一	玉井忠幸	伝川 幹	堤 剛	中村政雄
		原 孝文	肥田美代子	福川伸次	マリ クリスティーン	山口寿一

事務局	事務局長	津村 浩				
	事務局次長(統括)	安達幸一				
	事務局次長	正岡美樹				
	経理担当(部長級) 田口博善					
	事業課	副課長	大久保広晴			
		伊藤香代	根本峰男	平井牧子	松岡 豊	田嶋美由紀
		佐藤友信				
制作課	課長	法木宏和				
		部坂祐貴乃	角田修平			
演奏課	課長	深川 弦				
		藤原 真	新谷琢人	小倉康平	武田若水	
総務課	課長	深川 弦(兼務)				
		杉山雄介	倉持徹也	菅原美和	山本響子	加藤智子
		山本明美				



読売日本交響楽団 プロフィール

読売日本交響楽団は1962年、クラシック音楽の振興と普及のために読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビのグループ3社を母体に設立された。スクロヴァチェフスキ、アルブレヒト、カンブルランなど、世界的なアーティストが歴代の常任指揮者を務め、2019年4月にドイツの名匠セバスティアン・ヴァイグレが第10代常任指揮者に就任した。

創立以来、著名な指揮者、ソリストと共演を重ねている。現在、名誉顧問に高円宮妃久子殿下をお迎えし、東京のサントリーホールや事業提携する東京芸術劇場などで充実した内容の演奏会を多数開催している。

2017年11月にはメシアンの歌劇〈アッシジの聖フランチェスコ〉(全曲日本初演)が好評を博し、『音楽の友』誌の「コンサート・ベストテン2017」で第1位となったほか、「第49回(2017年度)サントリー音楽賞」を受賞した。

このほか、社会貢献活動として、公益財団法人「正力厚生会」のがん患者助成事業に協力する「ハートフル・コンサート」や、小中学校での「フレンドシップ・コンサート」などを開催し、音楽文化のすそ野拡大にも地道な努力を続けている。

ホームページ <https://yomikyo.or.jp/>

月刊オーケストラ 3月号 2020年3月1日発行

編集発行人 津村 浩

編集 公益財団法人読売日本交響楽団

編集協力 株式会社中央公論新社

発行所 読売日本交響楽団 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-20 錦町トラッドスクエア6F
Tel. 03-5283-5215 (代) Fax. 03-5283-5222

印刷所 共同印刷株式会社

©2020 読売日本交響楽団 本誌記事の無断掲載を禁じます。